

## 公開セミナーの感想

### 理学4年保護者

「認知症の脳病理」について、脳の解剖において講義をして頂きありがとうございました。ただ、学生なら早口でお話しされてもわかる点が、脳の断面だけで説明を受けても少々理解できない点があり残念でした。また、多少なれどもCT、MRIの画像と脳の断面との比較があれば多種は理解できたと思いました。日常生活の中で、アルツハイマー、ピック病の注意点が聞けたことは勉強になりました。ありがとうございました。

### 理学3年保護者

今年の公開セミナーは「認知症の脳病理」というテーマで、病理学的見地からのお話しでした。脳の断面図が出たり少し難しい専門用語が出たりで、こちらの脳もだいぶ溶けかかっているのも理解も難しくありましたが、逆にこういう見地からの認知症の話はめったに聞けないので面白かったです。印象に残ったのはアルツハイマー病の患者の脳断面図の変化です。脳のしわの間が透けており、記憶をつかさどる海馬が解けて小さくなっていました。また、老人斑といわれる黒いしみが神経細胞を壊し徐々に広がって行き脳に黒い縁取りができていました。また、すべての人はアルツハイマーの病変を持っているが、病変と症状は一致しないということでした。自分自身の脳も、もう密かに進行しつつあるかもしれないと思うと少し怖くなりました。化学が進み、認知症に対する新薬ができ脳の晴れる日が来ることを願います。

### 理学3年保護者

大学教授から直接お話を伺える貴重な機会は毎回楽しみに参加させていただいております。今回は医療や介護で大きな問題になっている認知症を脳病理という側面で考えるといった少し難しいテーマでしたが、脳実質の写真はCTやMRIの画像よりリアルで、スライスされた病変部はアルツハイマーの症状と進行を確認するのに十分な映像でした。

### 理学2年保護者

加齢とともに、全ての人々が認知症になる可能性があるのも、今回の公開セミナー、とても興味深く、聞かせていただきました。同じ大きさの病変を脳にもったとしても、症状がでる人とでない人がいて、個人差が大きく、環境に左右される事もあるとお話でした。脳を活性化させ認知症にならないためにも、文京学院大学の保護者会、学校行事に参加して、人とのコミュニケーションを積極的に図って行こうと思いました。

### 理学2年保護者

認知症は病理の場所によって症状の現れ方が違うことを知りました。また、正常と病気の境は難しいと思いました。誰でも老化はしてゆくわけで、新薬の開発も望まれますが、明るく笑って歳を重ねてゆきたいものだと思います。